

学協会の歩み 1982 年創設：多分野融合型の『農村計画学会』

『農村計画学会』の魅力の一つは、創設時から多分野融合型の学会であることです。幅広い学術分野の研究者が発起人となり1982年に創設され¹⁾、2022年度は40周年を迎えました。少子化かつ高齢化社会の先進地域である農山漁村を共通フィールドとし、日本にとどまらず国際的にも最先端の課題を共有化しながら議論することができる学会です。具体的には、社会、経済、法律、建築、土木、緑地、地理、環境科学等、学際的な会員の研究交流と共同調査、公開セミナーの開催、農村整備政策へのコミット等、多彩な活動を展開しています。会員構成は、大学や研究機関に所属する研究者・学生だけではなく、自治体職員、コンサルタント、設計者、地域づくり組織の方々等、現場で日々農村計画を実践されているメンバーが数多く参加している学会です。

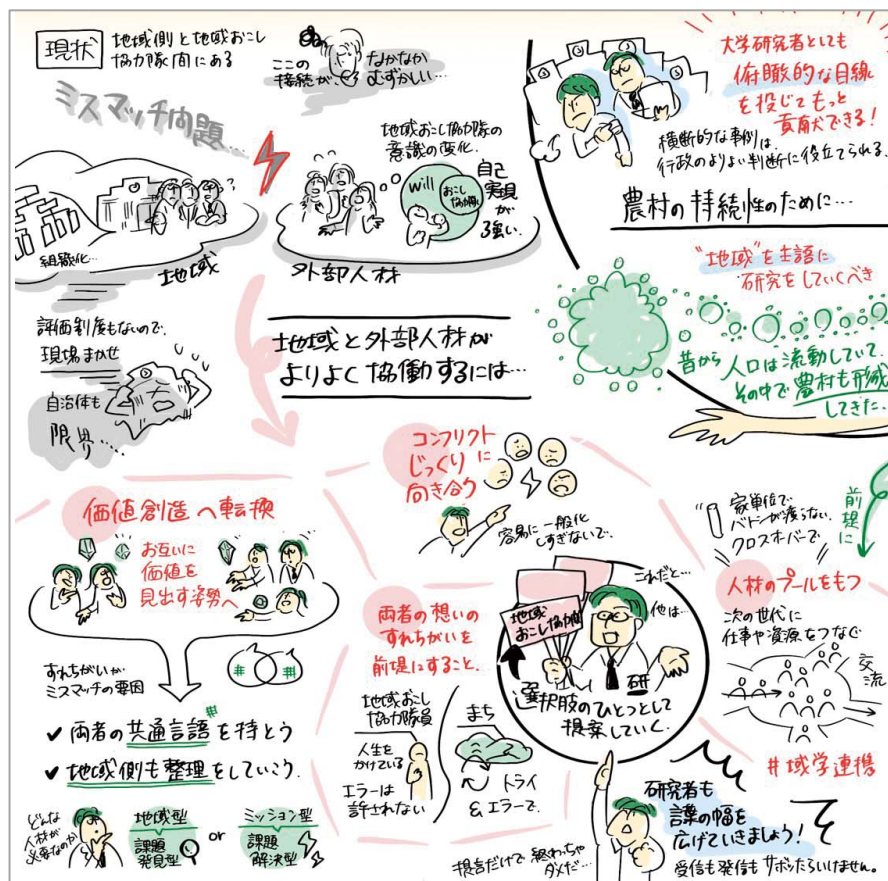
ところで、2011年東日本大震災の発災から14年経ちましたが、その後も熊本地震、能登半島地震他、各地での大震災や豪雨災害等、農山漁村地域での自然災害が多発している状況にあります。私たちは3.11後すぐに災害対応委員会を設置し、復興を目指すための調査・研究や活動実践を継続しており、近年は日本学術会議・防災学術連携体等にて他学会との交流の場を持てております。災害からの復興の現場では、私たちの学会の強みである超学際・農村計画専門家集団であることが活かせる場面は多く、今後も災害対応に力を入れていく所存です。

<農村計画学会 40周年記念事業 (2022) >

創立 40 周年事業ではコロナ禍ではありましたが 2021-2022 年、様々な活動を実施しました²⁾³⁾。



40 周年記念座談会 記録抜粋²⁾：「インフラ×エネルギー× Eco-DRR = 地域計画」



40 周年記念座談会 記録抜粋²⁾：「新しい生活様式×新たな主体の参画=多主体共創」

「こうありたい未来の農村計画」と題して3つのテーマ「インフラ×エネルギー× Eco-DRR =地域計画」「新しい生活様式×新たな主体の参画=多主体共創」「資源×分配× well-being =価値観・文化」による記念座談会、記念シンポジウム「不確実性に挑む農村計画」、記念出版「農村計画研究レビュー -10 年間の農村計画学を読み解く-」等、多様なアウトプットで学会の 10 年間と農村計画の未来をディスカッションする機会を得ました。40 周年記念号²⁾及び、記念書籍³⁾はぜひ、参照いただきたいと思います。

(斎尾 直子)

引用

- 1) 発起人一同(1981)「農村計画学会設立趣意および設立宣言」
- 2) 農村計画学会 40 周年記念特集(2022)
「こうありたい未来の農村計画」
ありがとう氏によるグラフィックレコーディング
農村計画学会誌 40(4), 176-212
- 3) 農村計画学会 (2022) 「農村計画研究レビュー -10 年間の農村計画学を読み解く-」 筑波書房

